

横浜市立大学 探査会・探検部 OB 会



～青春とは人生のある期間を言うのではなく、心の持ち方を言うのだ。
……年を重ねただけで人は老いない。理想を失う時に初めて老いが来る～
(Samuel Ullman)

フィリピン・ダバオ合宿報告書【概要版】

《2025年3月10日～14日》

～参加者7名（敬称略）～

1. コーディネーター：熊澤憲（1981年文理学部入学）
2. サブコーディネーター兼通訳：室賀美和（1988年文理学部入学）
3. 幹事：川尻哲夫（1970年商学部入学）
4. 一般OB：長瀬松男（1970年商学部入学）
5. 現役部員：荒金琴美（国際教養学部4年）
6. 現役部員：多田茉絃（国際教養学部2年）
7. 現役部員：大野果歩（国際商学部2年）



※作成：川尻哲夫

＜合宿旅行の目的＞

(2024年12月時点で、熊澤OBが設定した計画案)

1. ダバオの大自然と固有の文化を楽しむ
2. ダバオ入植者とその後の日系人の歴史を学ぶ

(※本報告書では2の目的とその結果に重点を置いて記述した)

3. 中進国フィリピンの第3の都市で進行している経済発展とその社会格差を知る
4. OBが現役の活動を支援して、技術と経験を伝える
5. OB会としてフィリピン最高峰アポ山の外国人最年長記録に挑戦する

(※短い日程とメンバーの多くが登山経験の少なさから5の目的は断念した)

ダバオでの主な行動記録

(※現地集合、現地解散としたため、各メンバーの前後の行動は記述していない)

■3月10日(月)<1日目> ダバオ着20:15 空港から熊澤OBが手配した2台の車で、それぞれのホテルに向かい分散宿泊

■3月11日(火)<2日目> いざ、出発！

(アポ・ビュー・ホテルにてメンバー紹介・敬称略→)

●市内観光(商業施設AbreezaMail、BankerohanMarket、民俗村、旧日本軍の遺構等の見学↓)



- 熊澤OBの現地事務所(JICA)にて→
- 夕食後、ダバオ名物の夜市見学等



■3月12日(水)<3日目>

●熊澤＆室賀組はダバオ市観光局にて商談

●残り5人は国立博物館見学 →

●午後、サマール島に渡る ●コウモリ保護センター見学↓(180万匹の群生を間近に観察)



←●室賀OGの名通訳で
コウモリの生態がよく理
解できた



↑●Hagimit Halls

■3月13日(木)<4日目>

●本合宿の主目的である「ダバオ入植者とその後の日系人の歴史を学ぶ」を施設の訪問順でなく、あえて時代順に報告することで、日本とフィリピンの歴史的背景が理解し易くなると考える。

(1) 16:30 ●フィリピン・日本歴史資料館見学…1900年代初頭にアバカ(マニラ麻)

の栽培で多くの日本人がダバオに入植して来た。マニラ麻は、船のロープの原料となるためその需要はひときわ高く、第二次世界大戦前には日本人が2万人以上を擁して、ダバオは「リトルトーキョー」と呼ばれるほどの活況を呈した。

●本資料館には、日本人の入植の歴史、住民分布図、生活用具、アバカの実物等が展示してあり、逞しい日本人が活躍した一時代を彷彿させるものがあった。



2020年に日本人の寄付と日本政府の援助で大幅に改修されて、非常に見学し易くなった。



日本人が入植した地域の分布図。ダバオのあるミンダナオ島には5ヶ所の記号が記されており、いかに集中していたかを示している。←

(2) 12:30 ●太田恭三郎記念碑訪問…「ダバオはこのアバカ麻栽培を中心として発展し、ミンダナオ

島の経済発展にもつながった。ダバオの日本人人口は2万人にも達した。

第二次世界大戦という不幸な歴史も存在したが、現在の日本とフィリピンの友好な関係を考えるとき、太田はその土台形成という意味で大きな役割を果たした」

(※記念碑文に刻まれている原文の一部を抜粋した) →



■3月13日(木)<4日目>

(3)9:30 ●ミンダナオ国際大学訪問…今回の合宿の主目的であり、最大の収穫を得た訪問地となった。

予め熊澤OBから懇談の申し入れをしておき、快くご対応いただいた方は、**同大学学長でフィリピン日系人会会長でもあられるイネス 山之内 P.マリヤリ氏(↓)と(↓)秘書の三宅 史桂(ふみか)氏**であった。



●両氏から40数枚のスライド「**フィリピンの日系人～日系人の**

歩みと将来～」と題した資料を解説していただいた。特に大きな問題としては、

終戦直後に日本人の多くが帰国したことで、現地で生まれた子孫が日本人ともフィリピン人とも認められず、現地で取り残されている現実である。残留孤児問題は中国だけでなく、フィリピンにも存在する。日系人会としての仕事は未だ身元の不明のまま生きている約800人の残留2世の国籍確認作業を粘り強く行っていることの現実がOB会7人の心に強く刻まれた。



●2016年には天皇ご夫妻(上皇ご夫妻様)、2017年には安倍元総理もご訪問をされたことから、フィリピン日系人問題は重要性を有している。

＜追加のスナップ写真とキャプション＞



成田からフィリピンに向かう機内にて
(マニラ乗継ぎで合計37, 500円)



全員の初顔合わせ(アポビューホテルにて)
(ダバオでは一流ホテル、1泊 5, 360円)



独特の匂いのドリアンを食することで東南アジア
に来た雰囲気が醸し出される



国鳥フィリピンイーグル↑



ダバオでの初日の夕食は眺望も良く、
味もエクセレント！さすが熊澤さん



サマール島での昼食も民族料理が一杯
(パンシット・カントンが美味かった)



サマール島の夕日に感動！
チョコレート工場の工員さんが愛想を振りまく→



《まとめ》 合宿旅行の目的は達成できたか？ <結論>OB会活動としては達成できたと評価する

1. ダバオの大自然と固有の文化を楽しむ ⇒○
2. ダバオ入植者とその後の日系人の歴史を学ぶ ⇒○
3. 中進国フィリピンの第3の都市で進行している経済発展とその社会格差を知る ⇒○
4. OBが現役の活動を支援して、技術と経験を伝える ⇒○
5. OB会としてフィリピン最高峰アポ山の外国人最年長記録に挑戦する ⇒×

◆OB会活動の意義とは、OB・OG達が交流を深めつつ、互いに情報交換を促進して、今後の人生に生きがいを見いだすこと、そして現役の活動をも支援することとするならば、時間の制約がある中で今回の旅行では **目的は達成できた** と考える。

◆特に目的2では、戦前の日本人が残したプラスの歴史的遺産と戦争で積み残したマイナスの遺産をプラスに変える活動の **主体となっている方々** (ミンダナオ国際大学、歴史資料館) から、直接に説明を受けたことは貴重な経験となった。

◆目的4においては、現役部員が熊澤OBのフィリピンでの職業体験による人脈・知見の広さと室賀OGの流暢な英語通訳に **触れたことは**、残りの大学生活で学ぶべき課題や社会人になる方向性への示唆が得られたのではないか、と考える。

◆一方、長瀬OBは50数年前に現役部員として訪れたサンボアンガを再び訪れるために、ダバオの旅行社を訪問して直接、情報収集できたことも彼の収穫の一つとなろう。もしも再訪するならば、ボルネオ島に近いタウイ・タウイ島まで行く否かが **彼の残された人生での選択の一つ** である。

◆最後に私、川尻は目的3に関して、マニラの街の近代的なビル群と最貧困層のスモーキーマウンテンを訪れた。フィリピンの経済発展と国民生活のアンバランスの実態に触れたことで、今後もフィリピンに関わって行きたい、と感じた。

